

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 9 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23300219

研究課題名(和文) 武道文化に関するオンデマンド英語教材の開発

研究課題名(英文) The development of on-demand English teaching materials for budo culture

研究代表者

酒井 利信 (SAKAI, Toshinobu)

筑波大学・体育系・教授

研究者番号：40281711

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,100,000円、(間接経費) 2,730,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、既に酒井らが有するヨーロッパを中心とした海外ネットワークを駆使して、まずは外国人実践者が日本武道の何を知りたいと望んでいるのかという海外における需要を把握し、これに対応する内容を英語化して、ネット上で発信することにより、世界で初の、海外において誰でも、どこでも、いつでも、知りたいことを知ることができる、武道文化に関するオンデマンド英語教材を開発することを目的とした。

最終的な研究成果物としてはバイリンガル・ウェブサイト「Budo World」(<http://www.budo-world.org/>)を立ち上げ、英語と日本語で情報を発信した。

研究成果の概要(英文)：The proposed research aims to develop on-demand English teaching materials for the culture of budo. Making full use of the European-focused international network which Professor Sakai already has, the project would first seek to gain a sense of international demand on what overseas practitioners of budo would like to know about Japanese budo, and then subsequently create English language content to fit this. When published on the Internet, this would be the first resource of its kind in the world to allow anyone overseas, anywhere and at any time, to find the information that they are seeking about budo culture.

The final outcome of the research would be the launch of a bilingual website, "Budo World," (<http://www.budo-world.org/>), with information available in both English and Japanese.

研究分野：武道学

科研費の分科・細目：健康スポーツ科学・身体教育学

キーワード：武道文化 オンデマンド 英語教材

### 1. 研究開始当初の背景

日本発祥の運動文化である武道は、今や世界各地で盛んに行われているが、日本国内同様に、海外武道実践者の意識は、競技性もさることながらその文化性に向けられている傾向が強くある。Alexander Bennett (2005) は、日本文化に対する興味から武道を始める外国人も数多くいることを報告している。実践現場から聞かれる声として看過できないものに、“武道に関する書籍が少なすぎる”、“せめて英語で書かれた、正確で、質の良い情報が欲しい”という要望がある。更には、“これはあなたたち日本人の義務だ”という強い語勢のリクエストすら受けたことがある。

国内において、武道文化については、数多くの研究者により様々なアプローチがなされ多くの研究成果が学会に報告されている。またこれらの知見が一般化され、多くのテキストが出されもしている。しかし、これらは国内に留め置かれ、有効に海外に発信されていないというのが現状である。一方、海外の動向に目を向けると、近年、武道の文化性をも含めた科学論文の英文での発信がなされ始めている。例えば、ポーランドに本拠地をおく International Martial Arts and Combat Sports Scientific Society という学術団体から、2005 年より *Archives of Budo* という英文のオンラインジャーナルが発信されている。内容的には一般向けではないが、英文での広い範囲へのネット上発信という点で我々に先んじていることは確かである。

武道、特にその文化性については、世界で日本人がリーダーシップをとれる数少ない領域であるはずが、世界から寄せられる期待とは裏腹に、出遅れた感は否めない。俗な言い方をすれば“母屋を取られた”状態とも言えよう。

このことは、世界における武道に対する理解が、本来武道が有してきた文化的独自性からはなれた形で独り歩きする危険性をも含んでおり、この問題の解決は急務である。

以上のような状況を鑑み、研究代表者である酒井らの研究チームは、科学研究費補助金事業(平成 19~21 年度 基盤(B)「武道文化に関する教材開発」)において、武道の中でも特に剣道の伝統と文化性に関する学術的知見を一般向けに記述し直し、連携研究者である Alexander Bennett 氏の協力を得て、英文との対訳による論考を継続的に発表し、これをまとめて『英訳付き日本剣道の歴史 A Bilingual Guide to the History of Kendo』と題する書籍を発刊した。また、DVD 教材やスライドを作成し、この研究成果物を用いて海外において武道文化講演を行ってきた。

上記プロジェクトにおいては一定の成果をあげてきたが、様々な問題も明確となり、特に研究成果の幅広い発信ということにおいては、その方法・内容に発展の余地が大きく残されている。

そこで海外における武道関係者の需要(デマンド)を把握した上で、海外において誰でも、どこでも、いつでも、知りたいことを知ることができる、武道文化に関するオンデマンド英語教材を開発しようという着想に至った。

### 2. 研究の目的

本研究は、既に酒井らが有するヨーロッパを中心とした海外ネットワークを駆使して、まずは外国人実践者が日本武道の何を知りたいと望んでいるのかという海外における需要を把握し、これに対応する内容を英語化して、ネット上で発信することにより、世界で初の、海外において誰でも、どこでも、いつでも、知りたいことを知ることができる、武道文化に関するオンデマンド英語教材を開発することを目的とする。

### 3. 研究の方法

本研究の計画および方法としては、以下の6段階のステップを踏む。

- (1)海外における需要(デマンド)の調査
- (2)内容の吟味・確定
- (3)対象の二分化と内容の一般化
- (4)翻訳(英語化)
- (5)発信
- (6)フィードバック

先ずは海外における需要(デマンド)を把握することから始め、内容の吟味、一般化、英語化の過程を経て、最終的にオンデマンド英語教材を完成させネット上で海外に発信する。

### 4. 研究成果

東欧を中心にデマンドの調査を行った。調査は以下の機会に行った。

- ・Hungarian Sports Science Association, Budapest HUNGARY, 2011.10.20
- ・Kendo Seminar, Hessen Kendo Federation, Frankfurt GERMANY, 2011.12.17
- ・Hungary Cup・BAMIS Seminar, Budapest HUNGARY, 2012.7.19
- ・Eötvös Lóland University 日本学コース特別講義, Budapest Hungary, 2013.3.12
- ・The Gate of Dharma Buddhist College 公開講座, Budapest Hungary, 2013.3.16

この調査結果位にもとづいて作成した最終的な研究成果物としては、以下のものがあげられる。

- (1)バイリンガル・ウェブサイト「Budo World」(<http://www.budo-world.org/>)を立ち上げ、以下のコンテンツをアップした。
  - ・Welcome to Budo World -Greetings. Budo world,
  - ・The Ideology of Tōken (swords)
  - ・The 1st BAMIS International Forum-Budō Symposium - Investigating the possibilities of body and mind integrated science in *budō* ~ Learning from *Kanō*

Jigoro's achievements to consider the present ~

- ・ Bu in Mythology
- ・ What is Budō?
- ・ Diagram of Budo Histor
- ・ The Emergence of the Japanese Sword, Three Forms of Mounted-Archery, Formation of Ryūha (martial traditions or schools), Archery contests at the Sanjūsangendō, Kenjutsu with Shinai, New ryūha created, "Three Great Dojo of Edo, Creation of the Kōbusho, The Budō Crisis, Gekken Kōgyō-The Public Fencing Shows
- ・ The Creation of Kōdōkan Jūdō by Kanō Jigorō, The Dai-Nippon Butokukai is established, Post-war Budō - GHQ Prohibition

(2) 英語版ビデオ映像「The heart and technique of Kendougu Craftmen」を作成。(平成 26 年 7 月開催のハンガリー・カップ日本文化講演で上映し、その後 Budo World にアップする予定)

(3) 英語書籍「The Ideology of the Sword」(邦書『刀剣の歴史と思想』)の翻訳を終え、近日中に日本武道館より出版予定。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 6 件)

浅沼徹・武田文・朴峠周子・門間貴史・香田泰子・藤原愛子・木田春代・増地克之・岡田弘隆・酒井利信・香田郡秀：大学生武道部員におけるストレス対処力(SOC)とその関連要員，健康支援，15-2，4-14，2013(査読有)

軽米克尊・酒井利信：直心影流の法定の形に関する一考察．身体運動文化研究，18-1，43-57，2013(査読有)

阿部弘生・酒井利信・大石純子：武術修行における修験道思想に関する一考察：天流を中心に．身体運動文化研究，18-1，29-41，2013(査読有)

大石純子・酒井利信：『紀效新書』における日本刀特性を有する刀剣の受容について：18 巻本と 14 巻本の比較を通して．武道学研究，45-2，87-107，2012(査読有)

酒井利信：武道史における身心論序説．筑波大学体育科学系紀要，35，1-15，2012(査読有) <http://hdl.handle.net/2241/117206>

大石純子・酒井利信・屈国鋒：朝鮮李朝期の武芸書にみられる漢字「劔」の使用に関する一考察．武道学研究，44-2，65-81，2011(査読有)

[学会発表](計 18 件)

村上雷多・酒井利信・軽米克尊：近世初期剣術における精神性に関する一考察．日本武道学会第 46 回大会第 1 回国際武道会議，

2013.9.10，筑波大学(茨城県)

三笥冴・酒井利信・軽米克尊：一刀流剣術における構えに関する一考察．日本武道学会第 46 回大会第 1 回国際武道会議 2013.9.10，筑波大学(茨城県)

北野寛平・酒井利信：剣術と能楽の関係性についての一考察．身体運動文化学会第 17 回大会，2012.10.21，久留米信愛女学院短期大学(福岡県)

阿部弘生・酒井利信：剣術における修験道思想に関する一考察 天流を中心に．身体運動文化学会第 17 回大会，2012.10.21，久留米信愛女学院短期大学(福岡県)

軽米克尊・酒井利信：直心影流の分派性についての一考察 長沼派・藤川派・男谷派を中心に．日本武道学会第 45 回大会，2012.9.6，東京農工大学調布キャンパス(東京都)

[図書](計 3 件)

Szakai Tosinobu：Forum for Budo Culture，A japan kendō története．2014，192 頁，酒井利信、他：全日本剣道連盟，絵図と写真に見る剣道文化史，2014，18~19 頁，酒井利信：日本武道館，刀剣の歴史と思想，2011，341 頁

[その他]

ホームページ等

バイリンガル・ウェブサイト

Budo World

<http://www.budo-world.org/>

Toshinobu SAKAI：Introduction to the Budo Study．The Gate of Dharma Buddhist College 公開講座，2013.3.16，Budapest Hungary，

Toshinobu SAKAI：Bird's eye View of Japanese Budo．Eötvös Lóland University 日本学コース特別講義，2013.3.12，Budapest Hungary，

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

酒井 利信(SAKAI, Toshinobu)

筑波大学・体育系・教授

研究者番号：40281711

(2) 研究分担者

百鬼 史訓(NAKIRI, Fuminori)

東京農工大学・工学(系)研究科(研究院)・教授

研究者番号：20126296

長尾 進(NAGAO, Susumu)

明治大学・国際日本学部・教授

研究者番号：40207981

(3) 連携研究者

大石 純子(OHISHI, Junko)

筑波大学・体育系・准教授  
研究者番号：50410163

アレクサンダー ベネット  
(ALEXANDER, Bennett)  
関西大学・国際部・准教授  
研究者番号：40353445

大保木 輝雄 (OHBOKI, Teruo)  
埼玉大学・教育学部・教授  
研究者番号：80114205

数馬 広二 (KAZUMA, Kogi)  
工学院大学・工学部・教授  
研究者番号：30204407

鍋山 隆弘 (NABEYAMA, Takahiro)  
筑波大学・体育系・准教授  
研究者番号：40334057